

吉和小・中学校の学校規模適正化に関する地域説明会 要点

- 1 日 時
令和7年10月2日（木） 午後7時00分～午後8時30分
- 2 場 所
吉和ふれあい交流センター 2・3研修室
- 3 出席者
地域住民：22名
市教育委員会事務局
生田教育長、畑板教育部長、宮崎教育総務課長、古井学校教育課長、
臼井学事・食育推進担当課長、教育総務課 川本事業調整監、上原主任、
学校教育課 横溝係長
- 4 会議内容
 - ・出席者紹介
 - ・教育長挨拶
 - ・学校規模適正化について事業調整監から説明（PowerPoint のとおり）
 - ・質疑応答・意見交換
- 5 質疑応答・意見交換の要旨

地域住民A	平成19年度から通学区域の弾力化制度を利用し、吉和小・中学校は市内全域から入学が可能となったとあるが、どのようなアナウンスをして、市内全域から募集をかけたのか教えていただきたい。 地域学校協働本部やコミュニティが関わって、学校運営をしているが、地域にとっての学校を教育委員会としてはどのように考えているのか。
事務局	通学区域の弾力化制度は、小学校・中学校に入学する時に、弾力化で指定された範囲で、行きたい学校に行くことができるという制度である。 平成19年の制度開始時にどうしたかはわからないが、現在は、小学校1年生であれば、10～11月にかけて行われる新1年生を対象とした就学時健診の案内を出す時に、A3の裏表の用紙を同封している。 市のホームページにも掲載して、周知している。その中で、吉和小学校は、市内全域から通学できると周知している。
事務局	学校は、子ども達の教育の場ということが基本であるが、地域にとっては、地域活動、災害時の避難所や、地域の中でもいろんな役割があって、

事務局	重要な要素を持っていることは認識をしている。 地域学校協働本部という言葉も出たが、地域と学校が一緒になって子どもを育てていこうという枠組みの中で、非常に重要な位置付けを持っているとの認識である。 ただ、学校教育が基本にある中で、そこを1番に考えていかないといけないということが、今回説明会を開催した経緯である。
地域住民B	資料3ページの「これから小・中学校で必要とされる取組」については、吉和の子はできている。これを学校規模適正化の目的にするのはやめていただきたい。児童・生徒が大勢いるからできるものではない。吉和小・中学校には、他の学校にはない良さがある。 統合を中学校、小学校の順番でするのは、大人の事情ではないか。中学校から統合すると、コミュニティはできているので、友達を作るのが難しく、1人ぼっちになる子が出てくるのではないか。小学校から統合した方が、まだコミュニティができていない状態なので良いのではないか。
事務局	教育委員会として考えている進め方を説明した。いろんな考えを聞きながら、最終的に小学校と中学校を同時に統合して欲しいということになれば、小・中学校同時に統合ということも考えていく。 これからの話し合いの中で皆さんの声をしっかり聞いていきたい。
事務局	吉和小・中学校の授業や子ども達を見る中で、求められている力を伸ばしていける教育に取り組んでいると思っている。今の取組にプラスして、多様な他者との関わりについて、工夫しながらできることはあると思うが、更に子ども達にいろんな形で地域の方も含めて、たくさんの人と関わっていけるような環境を作っていき、子ども達に役立つ力を付けていくための取組として、理解していただきたいと思っている。 今よりも更により良い環境を作っていく取組ということである。
地域住民C	学校規模適正化の方法について、1と2があるが、1と2はどういう観点で判断するのか。 統合ありきのような説明だったが、1と2の方法ではなくて、他の方法はないのか。検討して、より良い他の方法を見つけるのも一つの案ではないか。
事務局	1の「小規模特認校としての指定と特色ある教育の一体的な実施」は、児童生徒数の推移を目安にする。 吉和小学校は、すでに完全複式学級という状況であるが、今の時点で、他の学校で複式学級がある学校はない。 将来、複式学級が発生する見込みがあるという状況で、検討対象になっ

事務局	ている学校が2校ある。その2校については、小規模特認校制度の導入を考えている。それらの2校は、隣接する学区からの入学しか認められていないので、市内全域からの入学を可能にして、児童を集めたいと考えている。 小規模特認校として指定するだけでは、市内全域から入学できるということだけになってしまうので、特色ある教育に取り組んでいただくことにしている。ポイントは、地域、学校、保護者が一体となって学校をサポートしていくことだと思っている。 特色ある教育活動を行う中で、売りになる取組を大切にしていきたい。持続できることも重要である。最初は頑張っても、何年かしたら無くなってしまうということではなく、継続できるような体制と取組が見えてくれば、小規模特認校として、指定をしていきたいと考えている。 統合ありきの説明ではないかとの質問であるが、そのような説明をした。説明の中でも触れたが、吉和小・中学校は既に市内全域から入学できるという状況になっている。更に、小中一貫教育推進校という施設一体型の推進校ということで学校運営をしている。 吉和のすばらしい環境も一つの特色として、教育活動を行っているが、児童・生徒数の推移を見ると、非常に厳しいということで、先程のような説明の仕方になった。 説明した学校規模適正化の方法については、教育委員会で協議をして導き出したものであり、この方法で取組を進めていきたい。
地域住民D	吉和小・中学校の学校規模適正化の話が出たのはいつ頃なのか。その時すぐに地域に話が持ってこれなかったのはなぜかを教えていただきたい。
事務局	公になった時期で答えさせていただく。学校規模適正化について、令和4年度から検討をしている。吉和小・中学校のみではなく、市内全域の学校についてどうしていくか議論をしてきた。 基本方針を定めて表に出たのが、今年の6月中旬で、議会に基本方針を説明した。7月に教育委員会会議の議決をとって、対象となる学校、地域にアプローチをした。 議会での説明時と、教育委員会会議での議決時には、新聞で報じられたので、本当の意味で広く公になったのは、新聞報道のタイミングになると言える。 学校に関わることなので、まず学校運営協議会で説明をして、その後に、保護者、地域への説明という流れで動いている。 日程調整等をする中で、7月24日に学校運営協議会で説明をして、保護者説明会の日程を調整する中で、時間が空いてしまい申し訳なかった。
地域住民A	通学区域の弾力化について、仮に吉和小学校が津田小学校と統合した時

地域住民A	には、津田小学校から行ける学校は、隣り合わせた友和小学校だけになると認識している。 保護者が仕事で廿日市まで出る場合は、廿日市の学校に行きたいという子もいるかもしれない。そうできれば、選択の幅も広がる。 津田小学校との統合ではなくて、友和小学校と統合した方が選択の幅が広がるし、難しいかもしれないが吉和・佐伯地域で小中一貫校となると良いのではないかと思います。
事務局	通学区域の弾力化については、隣接校としているので、津田小学校に統合した場合には、友和小学校となる。距離はかなりあるが、宮島小学校も市内全域から入学できる学校なので、制度としては、宮島小学校も選択可能である。 統廃合の検討は隣接校から考えることとしているので、津田小学校を飛ばして、友和小学校との統合は考えていない。
地域住民D	令和4年度に協議を始めて、その中で、他部署、例えば中山間地域振興室と連携や情報交換をして、別の方法についての協議はあったのか。
事務局	学校規模適正化の取組は、教育委員会だけの話ではなく、市長部局の関係する部署が当然出てくると考えている。取り組んでいくに当たっては、関係部署と情報共有をして、今後具体的に話が進んでいく中で、教育委員会だけでは答えられない部分が出てくると思うので連携をしていく。市を挙げて取り組んでいく。 中山間地域振興室とも連携している。中山間地域振興室は、中山間地域振興ビジョンの策定に取り組んでいる。従前から子育て世代をターゲットにした移住定住施策等にも取り組んでいて、今後も継続していくということを知っている。 市として、そういった取組を行っていく中で、学校現場で見た時に、各学年にバランス良く子ども達が入学してくれば良いが、そうでなければ、児童は減っていき、いろいろと対応が難しくなる部分もあるということで、望ましい教育環境の確保のために取組を進めようとしている。
地域住民D	人を増やすことが目的であれば、地域や、他の部署も一緒になって取り組んで、違う方法もあるのではないかと。 早めに地域に落としもらえれば、多少は協力できることがあったと思うし、良い案が出たかもしれない。 今話を出されても、手の打ちようがないと思っているが、何かできることはないのか。
事務局	大変申し訳ないが、教育委員会において、現状の中でできることとして

事務局	は統廃合だと考え、今回説明会を開催している。
地域住民E	もし、子ども達が最後の一人になっても、吉和小学校に通いたいと言え ば可能性はあるのか。
事務局	授業の進め方は昔と変わってきている。知識を習得するだけなら良いと 思うが、集団生活が送れない中で、学校としての役割を果たせないと思っ ている。 全国の自治体を見ると、児童が凄く少ない状態になるまで学校を残して いるところもあるが、廿日市市教育委員会として、複式学級を解消し、子 ども達にとって望ましい教育環境を確保するということを掲げている中 で、一人になっても学校を残して欲しいと言われると、教育委員会として の判断が必要になると考えている。
地域住民F	今後、保育園の保護者、PTA、地域コミュニティで会を作って話をし ていくと思うが、会議を開いて、各団体に下ろして、また、まとまって話 をしてと進めていく中で、それが延々と続く訳ではないと思う。 最終的な決定は教育委員会会議で行うという話だった。 今、反対ですという話をしている場合なのか、要望を出していく時なの か、ゴールが見えないので、話し合いをするのが難しい。スケジュール等 をある程度提示してもらわないと、「期限になったから、そこまで」となる のが一番怖い。
事務局	期限を決めて、途中で切ると言うことは考えていない。一緒に考えてい ただいて、100%の納得は得られないかもしれないが、子ども達のため にこうしていこうと思ってもらえるような話し合いをしていきたい。 進め方については、それぞれの団体に持ち帰って話をしないといけない ことも出てくると思うので、それは団体の中で話をしてもらって、吸い上 げていく。 ご心配の通り、時間がかかると思うが、これから子ども達の数を見 た時に、状況的に非常に厳しい。令和10年度に小学生が10人位になる 見込みなので、5年10年かけて検討する状況ではない。 そういう情報も共有しながら、皆さんと話し合いを進めて、子ども達、 保護者の不安と負担がなくなるように、何を求めているのかをしっかり話 をさせていただきたい。 期限を決めた方が良いということについては、申し訳ないが、現時点で は、答えられる状況にはないので、考え方ということで答えとさせてもら った。
地域住民G	現状、子どもの数が減っているが、吉和小学校と宮島小学校は、市内全

地域住民G	域から入学が可能という話だった。もっと吉和小学校の特色など、良さをPRして選択してもらえるような宣伝をしてもらいたい。 学校規模適正化の話も継続して行わないといけないが、少ない人数であっても吉和小学校に来てくださいとPRをしっかりと、各地域が活性化できるように、統廃合にならないレベルまで、増やしていけるように対策として、考えていただきたい。
事務局	複式学級の基準は、2学年足して16人以上とされている。1学年で大体10人位が目安になる。10人いれば2学年足して20人になり、複式学級にはならない。そこまでの児童数を確保するのは、状況的に難しいと思っている。
事務局	「小中一貫校として生きる力を育む教育の創造」ということで、ホームページで、市内の子ども達や保護者に対しても見られる形で、吉和学園の取組について発信はしているが、吉和学園に来てくださいというところまではできていない。 子ども議会では、吉和地域の子どもについて知って欲しいという話をする子どももいるし、野外活動を吉和地域でできるようにバス代の補助をしたりして、沿岸部の学校が中山間地域に来れるような取組をしている。 吉和小学校と宮島小学校の子ども達で交流事業も行っている。PRになるかはわからないが、交流という取組を、吉和小・中学校から工夫して発信して、子ども達の頑張りを認めてあげられるような取組になるように学校と連携しながら取り組んでいきたい。
地域住民G	学校も教育委員会もいろいろと考えていることは分かった。今後、地域を踏まえて検討会をする時に、吉和には、スキー場や豊かな自然など色々な特性があるので、PRの仕方も考えて多くの子ども達が吉和に来てくれるような体制をとれば、違った形もあると思っているので、よろしくお願いします。
地域住民B	統合した後に、吉和に大企業を誘致して人口が増えた場合、学校を再開することは可能なのか。再開することはないのか。
事務局	そういうことが仮にあったとして、学校を作るかということ、状況的に厳しいと思っている。佐伯地域の学校に通うということで、吉和地域の子ども達の教育環境を確保していくことになるかと思う。
地域住民C	吉和地域で、空き家のことで活動をしている。空き家問題だけでなく、仕事と学校をセットでいろいろ考えて、活動している。その中で、学校が無くなったら、働く人も減っていくという話になる。

地域住民C	学校があるから、そこで働く人がいて、コミュニティがあると思っている。玖島小学校と浅原小学校が無くなった時に、玖島の人が友和に、浅原の人が津田に移住したと聞いた。吉和もそうなれば、地域コミュニティとして厳しい。 若い人は学校がないのであれば、地域から出て行く。地域としても、学校を残せるように、移住してもらえるように考えたが、うまくいかなかったが、やはりここにいるみんなを考えていけないのではないかな。
事務局	地域にとって学校が大事だということは、承知している。これから子ども達の数を見た時に、学校教育をどう考えていくのかというところで、説明した内容で考えている。 教育委員会として、まず子ども達の教育環境の確保に向けて取り組んでいくが、通学支援をすることで、吉和に住んでいても、佐伯地域で学校教育を受けられる環境を作っていく。それが、教育という観点も含めて考えた時に、望ましいと考えている
地域住民C	子ども達の数が減っていくのは目に見えて分かる話で、こういう話も建設的にしていけないといけないと思う。
地域住民H	吉和から見ると、津田と友和は同じような地域な気がする。特色ある教育の場として、吉和小・中学校を残して、津田小学校の児童に吉和小学校に通いたいアンケートをとって、通学支援をする方法もあるのではないかなと思う。 スキーや稲刈りなど、小規模校だからできる体験があって、10人も20人も来ないと思うが、5人位は来てくれる可能性があると思っている。 チャレンジ事業で宮島小学校との交流を手伝ってきたが、宮島小・中学校の児童・生徒はものすごく増えている。他地域からでも通いやすいからだと思う。吉和小・中学校も、通学支援があつたら、5人位増えるのではと考えることがあるので、アイディアの1つとして聞いてもらいたい。
事務局	既に市内全域から入学ができる制度を導入している中で、他地域からの通学の状況を踏まえた上で、今回の説明をさせてもらった。 複式学級の解消を目的に動いていくためには、一歩進んで取り組んでいかなければならないと考えている。
地域住民A	通学支援について、どのようなスタンスなのか教えていただきたい。個人的には、スクールバスを出してもらって、小・中学校別々で通学ができた方がいいと思っているがどうか。
事務局	原則として、統合になった場合には、通学について教育委員会で責任を

事務局	持って対応する。 方法については、玖島・浅原の場合は、路線バスを通学に使っている。学校の始業時間、終業時間等の調整をどこまでできるか検討することがまず最初の段階だと思う。そこから先は、これから話をする中で、どういうニーズがあって、どこまでできるのか検討させていただきたい。 具体的にバス会社とも話をしないといけないし、受け皿としてあるかどうかというところも検討していかないといけないと思っている。方向性が決まれば、具体的な話をさせていただきたい。
地域住民D	学校がない地域を、教育委員会としてどう思うか。どういうイメージか。
事務局	廿日市市の学校の設置状況を見ると、地域単位では学校がないという地域は今の時点ではない。地区単位で見ると、浅原地区や玖島地区など学校が無い地区はある。 学校の立地の状況として、大野地域は小・中学校は2校ずつしかない。それぞれ地域事情や人口分布で、学校の立地は変わってくる。 吉和小・中学校について、将来的に統合という話をしているが、子ども達の教育環境を考えた時に必要なことだと考えている。そのために通学支援等をしっかり行っていく。
地域住民D	保護者としての思いは、子ども達のことを1番に考えて、津田小学校に行きたいという声が多いのなら、そういう気持ちも受け止めなくてはいけない。地域住民としては、いつかこういう時期が来るんだろうと思っていたが、いざそうになると恐怖でしかない。 だんだん人口が減ってきて、人を呼ぼうという動きをする中で、子育て世代にとっては、学校が1つの移住の基準だと思っているが、その部分が無くなる。通う学校はあるかもしれないが、地域に学校が無いというのは、やはり恐怖であり、もしかしたら地域を出ていく人が増えるかもしれない。 何か策はあるのではないかと考えてしまい、思いたい。行政の人達と、一緒に何かできないかというのが願いである。
地域住民 I	今日は教育の具体的な話だったが、根本には市の行政があると思う。教育委員会が、子どもの教育だけを考えて、話せる話なのか。地域からすれば、子どもの話だけではない。 支所に教育の担当者がいない。生涯学習やスポーツの担当者も支所にはいない。行政と繋がるどころが既に無くなっている。その中で学校が無くなったら、吉和地域の意見は、誰がどこに伝えるのか。 議員さんはいるが、行政組織としてどう考えているのか疑問に思う。 地域として学校が無くなることが、問題だと思う。廿日市市の行政として考えてもらいたい。

事務局	教育委員会の職員は支所にはいない。支所は市長部局にはなるが、地域の窓口ということで、教育委員会も支所とやりとりをすることもある。 教育のことで何かあれば、生涯学習のことでも何でも、支所を通じて言っていたきたい。しっかりと地域の皆さんの声は聞いていきたいと思っている。
司 会	それでは、以上をもちまして質疑応答の時間を終わらせていただく。 多くのご意見ありがとうございました。 説明の最後に触れたが、今後、教育環境について話し合いの場を持っていく。本日いただいた意見等も踏まえ、しっかりと話し合いを進めていきたいと思う。 閉会にあたって、教育長の生田からご挨拶を申し上げる。
教育長	色々のご意見ありがとうございました。 いろんな思いも、気持ちも受けとめて帰りたいと思う。 学校の規模適正化は非常に重たい話で、軽々しく話を持ってくるということではできないので、教育委員会の中で、じっくり議論をした。その中で、いろんな部署との調整もした。今回、吉和に説明に来たということは、市全体での取組と捉えていただけたらと思う。 学校が無くなったらどうなるかということも当然考えた。ただ、これからの子ども達の数考えた時に、このまま放っておく訳にはいかない、教育委員会として1番に考えないといけないのは、子ども達の教育のことだと考えた。 学校は小さな社会であり、友達との関わり合いの中で社会性を身につけていく。いろんな考えの人がいて、例えば、今日この場でも、先に中学校を統合して、小学校を後からというのは、いかがなものかという話もあり、そう言われると確かにそうだなと思った。これは、地域、保護者と話をしながら決めるべきだろうと考えている。 小・中学校は、学級で生活をする時間が圧倒的に多い。自然が豊かだという良さもわかるが、学校生活で考えると、ほとんどの時間が学級での生活である。小学校6年間、中学校3年間の計9年間、例えば、2・3人の学級で、ずっと一緒に、本当にいいのかなと思う。 今からは、いろんな問題にぶち当たったときにどう考えるかという、考え方を身につけていかないといけないとなった時に、例えば10人いたら10人分の考えを持つことができる。そういうことを聞きながら学んでいく9年間であって欲しい。 最初に学校運営協議会で説明をして、次に保護者説明会を開催して、今日地域説明会を開催した。今からいろいろ議論をして、本当に良いという方向を目指していきたい。 これからしっかりやりとりをさせていただきたいと思いますので、どう

閉 会

ぞよろしく願いします。

今日はどうもありがとうございました。